

国体先催県の取り組みを踏まえた滋賀県の取り組みについて

先催県における国体開催経費について

年度 (回)	開催地	開催経費	(単位:億円)			備考(主な整備対象施設)
			①大会運営費	②競技力向上費	③施設整備費	
H18 (61)	兵庫	未公表	66	未公表	256	県立尼崎の森中央緑地スポーツ健康増進施設、県立三木総合防災公園、県立武道館
H19 (62)	秋田	250	44	37	169	県立中央公園陸上競技場・庭球場、県立武道館、県立野球場、県警察学校射撃場、県立湯沢高校体育館 (別途県立総合プール改築(H13竣工)の実績あり)
H20 (63)	大分	104	52	30	22	大分スポーツ公園九州石油ドーム、大分スポーツ公園テニスコート
H21 (64)	新潟	254	50	37	167	ダイエープロビスフェニックスプール、ハードオフエコスタジアム
H22 (65)	千葉	未公表	76	未公表	2	
H23 (66)	山口	229	38	35	156	維新百年記念公園陸上競技場、山口きらら博記念公園水泳プール
H24 (67)	岐阜	136	45	34	57	岐阜メモリアルパーク長良川競技場、同テニスプラザ
H25 (68)	東京	未公表	未公表	未公表	未公表	
H26 (69)	長崎	185	51	26	108	県立総合運動公園陸上競技場、小江原射撃場
H27 (70)	和歌山	303	66	36	201	紀三井寺陸上競技場、同野球場、秋葉山県民水泳場、武道・体育センター和歌山ビッグウェーブ、和歌山競輪場、和歌山セーリングセンター

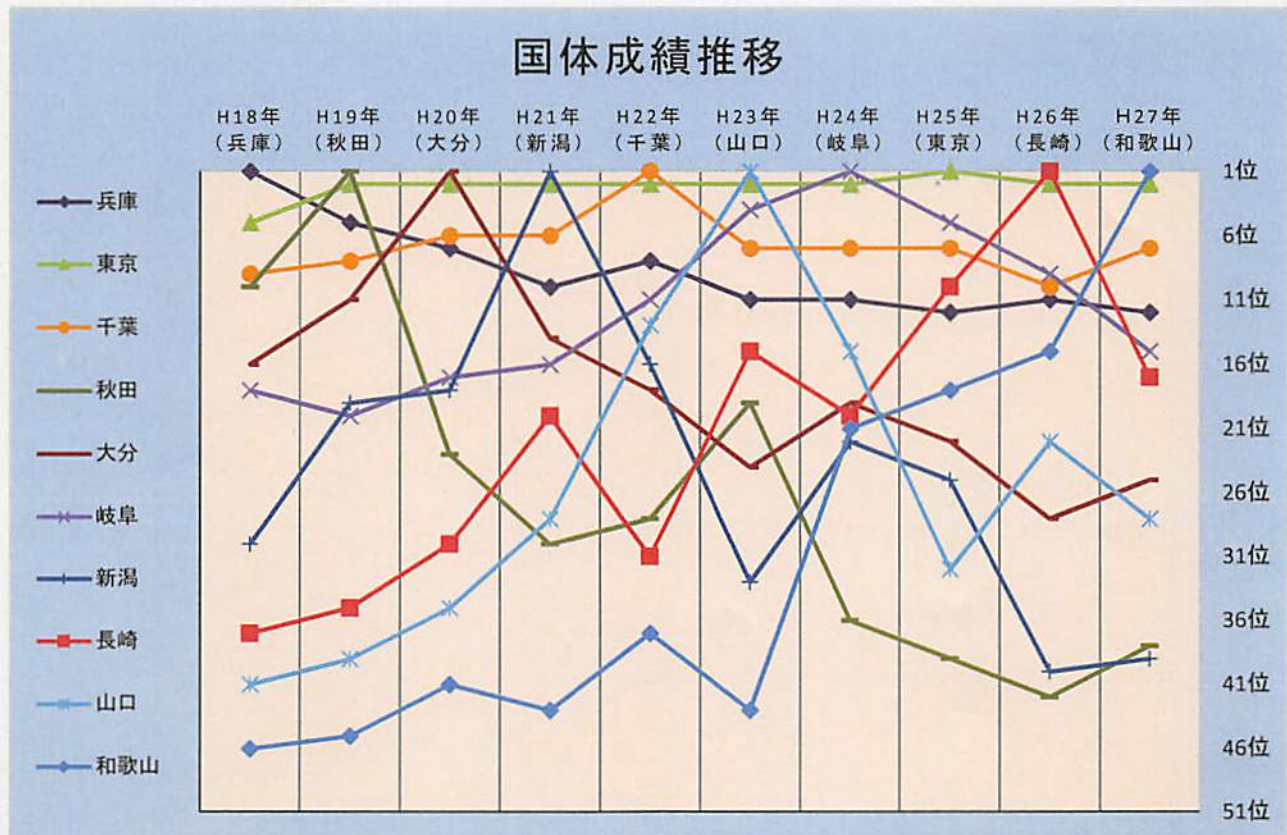
①②他府県による調査等より

③国体競技会場となった県立施設に関し、開催内定年(開催5年前)以降開催年までに竣工した施設整備(新築・改築・改修)に要した事業費

国体先催県の取り組みを踏まえた滋賀県の取り組みについて

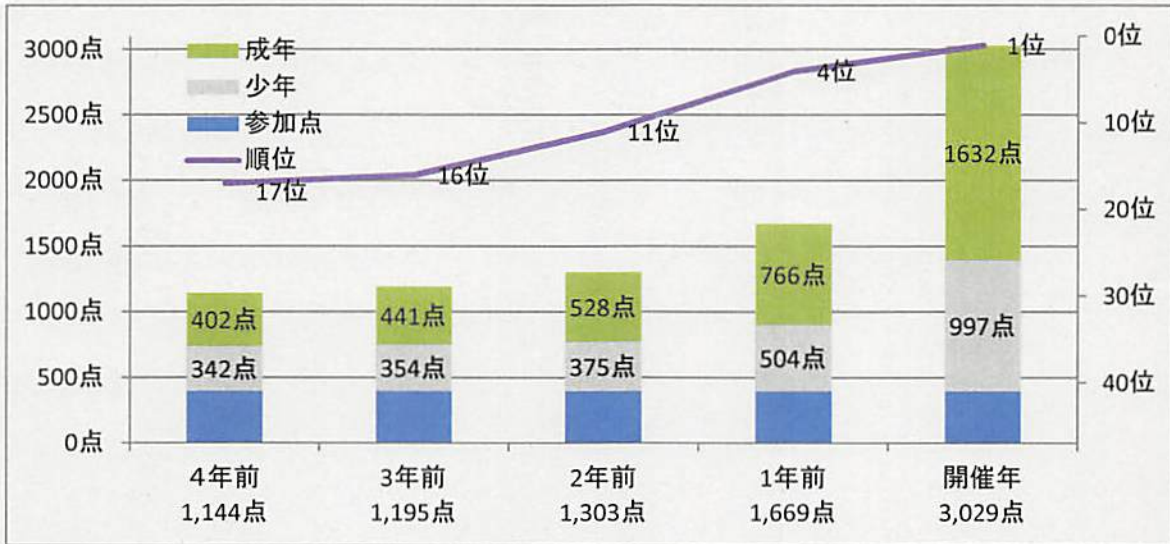
【先催県の成績推移について】

開催県	H18年 (兵庫)	H19年 (秋田)	H20年 (大分)	H21年 (新潟)	H22年 (千葉)	H23年 (山口)	H24年 (岐阜)	H25年 (東京)	H26年 (長崎)	H27年 (和歌山)
和歌山	46位	45位	41位	43位	37位	43位	21位	18位	15位	1位
長崎	37位	35位	30位	20位	31位	15位	20位	10位	1位	17位
東京	5位	2位	2位	2位	2位	2位	2位	1位	2位	2位
岐阜	18位	20位	17位	16位	11位	4位	1位	5位	9位	15位
山口	41位	39位	35位	28位	13位	1位	15位	32位	22位	28位
千葉	9位	8位	6位	6位	1位	7位	7位	7位	10位	7位
新潟	30位	19位	18位	1位	16位	33位	22位	25位	40位	39位
大分	16位	11位	1位	14位	18位	24位	19位	22位	28位	25位
秋田	10位	1位	23位	30位	28位	19位	36位	39位	42位	38位
兵庫	1位	5位	7位	10位	8位	11位	11位	12位	11位	12位

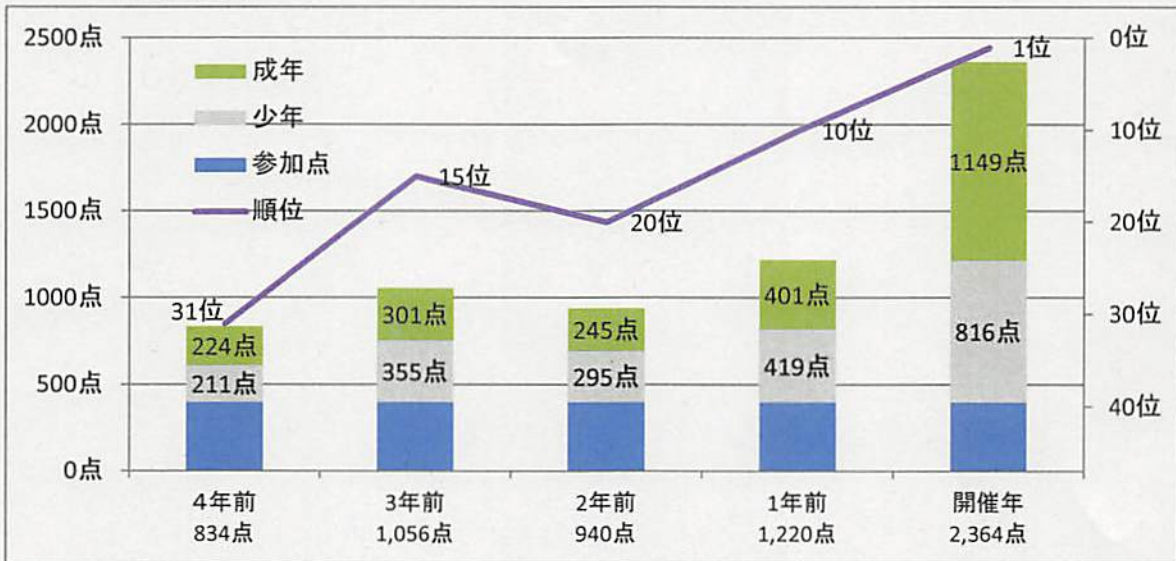


先催県の種別ごとの得点推移

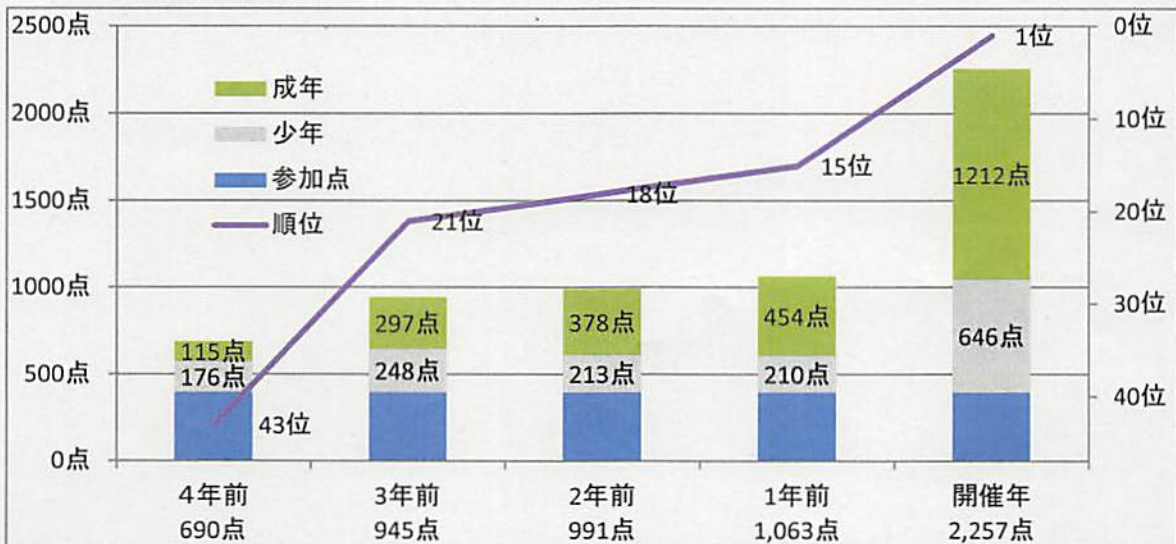
[岐阜県]



[長崎県]



[和歌山県]



先催県の競技力向上を目指した取組計画

開催まで	準備期			充実期				経過期				定着期
	10年前	9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開催年	開催後～
岐阜県				競技団体・学校体育団体の組織強化				企業・地域クラブの支援				
				指導者の養成・資質向上				優秀指導者の育成・配置				
				少年選手の育成・強化				少年・成年特別強化				
				成年選手の確保・強化				医科学サポート支援				
長崎県		指導者の養成			指導者の養成・適正配置							
		優秀選手の発掘・育成			優秀選手の育成・強化・確保							
		医科学支援体制の充実			医科学支援体制の強化							
和歌山県				トップアスリート育成 (成年・少年の強化・指導者育成)				トップアスリート育成 指導者の資質向上				
				少年選手の発掘・育成				少年種別の強化				
								成年選手の確保				
				医科学サポート支援				医科学サポート				

滋賀県の競技力向上を目指した取組計画

開催まで	準備期			充実期				躍進期			定着期
	10年前	9年前	8年前	7年前	6年前	5年前	4年前	3年前	2年前	1年前	開催年
滋賀県	競技団体組織強化										
	少年種別の重点強化							少年種別の特別強化			
	成年選手の確保・強化							成年選手の(定着)採用促進			
	優秀指導者の養成・確保							優秀指導者の資質向上			
	医科学サポートスタッフの確保・体制の整備							医科学サポートチームの帯同派遣			

【先催県での課題】

- 過去10年間の国体開催県の競技力の状況を見ると、東京都や千葉県、兵庫県といった都市部の都県については、開催後においても高い競技水準を維持している。しかしながら、比較的人口の少ない県では、開催後は年次とともに低下傾向にある。
- 開催県の獲得得点を種別ごとにみると、どの県も開催直前になると成年種別の獲得得点が急激に伸びており、大会終了後においても高い競技水準を維持するためには、こうした成年種別の競技力を維持させることが必要。

【課題を踏まえた滋賀県の対応】

- 滋賀県では先催県に比べ、早期から競技力向上対策本部を立ち上げ、国体を見据えた競技力向上に取り組み、まずは、競技力向上の基礎となる少年強化に焦点をあて、強化対策に取り組んでいる。特に、今年度から強化の中心となる強化拠点校の設置を進めている。
- 琵琶湖を抱える本県の強みを活かしたポートやカヌーといった競技、また競技得点が大きく、これまでから高い競技力を有しているバレーボールやホッケーといった団体競技などの競技力を維持できるようにする。
- 少年強化で育った選手が大学等で成年選手として活躍し、将来は指導者として本県で活躍してくれるような好循環がうまれるよう、今年度から企業や大学・クラブチームを指定する強化指定事業も始めるとともに、今後は大学等を卒業した選手の本県での定着を目指し、就職について県内企業に理解と協力を働き掛けていくこととしている。